

『いわて希望塾』特集

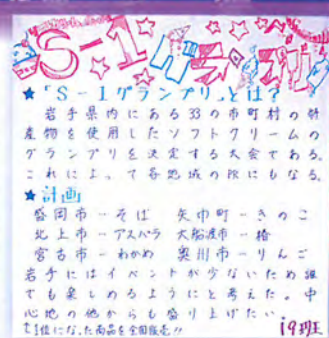
- P1 塾長(岩手県知事)へ成果報告
- P2 講話:塾長からのメッセージ「未来に迫いつく復興」
- P4 塾長との対話・塾生の感想
- P6 3日間の生活(フォトタイムライン)
- P7 特命大臣賞受賞インタビュー、平井ふみ子さん
- P8 「子ども・家庭・地域に関する交流セミナー」開催案内
青少年なやみ相談室・会員募集

青少年 いわて12

『いわて希望塾』の塾生が、研修の成果報告を行いました。



県内の中学生185名が参加した「いわて希望塾」の成果報告会が、11月25日(月)県庁知事室で行われました。塾長である達増知事に、研修でまとめた地域づくりや復興への提言を報告しました。研修では63の提言がまとめられ、復興ゆるキャラでいわてをPRする「木望くんプロジェクト」、「全日本中学生議会」、「いわてドラマプロジェクト」など8つを報告しました。12人の代表者は緊張しながらもしっかりとした口調で知事への報告を行いました。





平成25年度「いわて希望塾」実施概要

【目的】

市町村の枠を越えた交流活動や「復興の加速化」にちなんだ意見交換などからの学びにより、自らと地域を見つめ直し、積極的に岩手の復興や地域づくりを担おうとする、心豊かで意欲に満ちた人材を育成することを目的とする。

【期 日】 平成25年11月2日(土)～4日(月)

【会 場】 国立岩手山青少年交流の家

【参加者】

(1) 県内各地中学生 185名

(支援学校・県立・国立大学法人・私立学校に在籍する中学生を含む)

(2) 青年リーダー27名

(地域で活躍する青年)

【おもな内容】

日 程	内 容
11/2(土) 1日目	開会式・オリエンテーション アイスブレイキング グループディスカッション① 講義「復興支援活動について」 (一社)子どものエンパワメントいわて 学習支援課長 浅石 裕司氏 テーマ別ディスカッション サロン「未来へのヒント部屋」
11/3(日・祝) 2日目	講話「塾長からのメッセージ」 塾長との対話 塾長：岩手県知事 グループディスカッション②③ ワークショップ 「自分たちにできることを考える」 コーディネーター：山本 克彦氏 テーマ別ディスカッション サロン「未来へのヒント部屋」 講演「私たちにできること」 アンダーエイジさん
11/4(月・休) 3日目	未来への宣言(全体発表) ふりかえり



【講話】塾長からのメッセージ

『未来に追いつく復興』

塾長：岩手県知事 達増拓也

岩手県では、今年度を「復興加速年」として、意識して復興を加速させています。

復興にむけて、大きく3つの原則に沿って進めています。

3つの原則とは「安全の確保」、「暮らしの再建」、「なりわいの再生」です。

復興に向けた歩みを進めるに当たって、まず、第一に「安全」を確保し、その上で、被災した方々が希望を持って「ふるさと」に生き続けることができるよう、「暮らし」を再建し、「なりわい（つまり産業）」を再生することが重要です。

未来へ追いつく復興に向けて

1「平泉」

震災の年である平成23年6月、平泉の世界遺産登録は、被災、そして復興という現実と直面している私たちに対し大きな勇気を与えてくれました。平泉の理念を胸に、岩手の災害からの復興に取り組んでいきたいと思っています。

2「三陸創造プロジェクト」

岩手県そして東北地方が復興することで、日本全体がよりよく再生することにつながるというもので、特に力を入れている3つ、①再生可能エネルギーの推進、②「三陸ジオパーク」の認定、③国際リニアコライダーです。

3「希望郷いわて国体」

2016年(平成28年)に、本県で第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」を開催します。「東日本大震災津波災害からの復興の力となる大会」、「いわての魅力を全国へ発信する大会」を基本方針とした大会です。選手として出場する人やスタッフの一員としてお手伝いしてくれる人、皆さんで盛り上げてほしいと思います。

希望塾

復興後の岩手を支えるのは
みなさんです！



いわての復興教育

小・中学校を中心に、一人一人に将来の復興を担う人になって欲しいという願いをもって始められたものです。

「被災から学ぶこと」と「被災体験を伝えること」は、どちらも欠かせない大切なことだと思います。建物や道路などの目に見える復興に限らず、一人一人がたくましく成長することが、岩手の復興につながることを考えています。

いわての若い方々に期待すること

NHK連続テレビ小説の「あまちゃん」、大好評のうちに放送が終了しましたが、その後も、多くの人々がドラマの舞台である久慈市、そして岩手県を訪れています。地元の資源を活用し、ファンとつながり、地域の活性化につなげていく取り組みを、「あまちゃん型地域振興」と呼んでいます。復興も同様であり、地元の底力と、若い世代の力、そして、さまざまなつながりの力を合わせることで達成されるものだと思います。

「いわてGINGA-NETプロジェクト」、県内被災地での長期的な復興支援を、全国の大学生ボランティアの力で進めていくために、岩手県立大学の学生さんが中心となって2011年夏にスタートしました。災害が発生した時に、その地域で必要としていることと、それを支援する学生ボランティアをつなぐ仕組みづくりを進めながら、実際に被災地で活動を長期的に行っています。

中高生や青年を対象にした意識調査では、平成21年度（震災前の）調査と比べて、平成24年度（震災後の）調査では、「将来の夢」、「住んでいる地域が好きか？」の回答について、震災後、岩手の青少年の「何かをしたい！」というやる気と、地域への愛着が、高まっていると考えられます。

みなさんに期待すること

「積極的に、考え、議論し、行動すること」

期間限定ショップ「SHIBUYA109KAMAISHI」が、釜石市の「シープラザ釜石」内にオープンしました。この企画のはじまりは、釜石市に住む女子中学生が「SHIBUYA109」の運営会社社長宛てに書いた「釜石市が復興に向け前進していくなかで、洋服のデザインや販売などの楽しいイベントを企画して、釜石に元気を取り戻したい」という思いが届き、見事実現したものです。「積極的な行動」により計画が動き出し、「考え、議論すること」により、計画がしっかりと進み、それに参加したみんなの笑顔・元気につながった良い例だと思います。

「つながりを大切にすること」

私たちは、人と人とのたくさんのつながりの中で、普段から生活しています。人とのつながり、地域とのつながりを大切にしながら、自分自身を見つめ直し、社会との関わりを考え、やがては、いわての未来をしっかりと担ってほしいと考えています。

岩手県は必ず復興し、以前よりももっと素晴らしい地域になるものと信じています。そのためには、県民一人一人の力が必要であり、これからの岩手を担う皆さんがそれぞれの力を発揮してほしいと思います。





何でも答えます！

塾長との対話

『塾長との対話』では、復興に関する質問、いわての明るい話題・夢・希望の膨らむ計画そして塾長への個人的な事の質問があり、ひとつひとつ丁寧に答えていました。



Q：いわてを復興させるにはどのようなことが必要だと考えていますか。

塾長：大きく言えば「安全の確保」と「生活の再建」と「なりわいの再生」の3つを進めていくことが必要です。ひとりひとりの復興が、突き詰めていけば『復興』という事になります。私もそのようにみんなが『復興』できるように取り組んでいます。

Q：被災地は2年半たった今でも、ガレキしか片付いていないところもあります。なぜこんなにも『復興』が遅れるのですか？

塾長：壊れた家や学校、病院を新しい所につくるには移転先の土地を確保する必要があります。個人が持っている土地を購入して、そこに建てるという事の方が多いです。そのため所有者の方一人一人と話し合いをして売ってもらっています。その手続きなどで時間がかかっています。

なぜ時間がかかっているのかが分からないと、不安に思うのは当然で、県としてはどうして遅れているのか、今どのような作業をしているのか、この作業が終わるとあとどれくらいで家(建物)が建つのかなど、分かりやすく情報を共有していく必要があると思います。

塾生の感想

岩手の私たちがやるべきことは何か、私たちにできることは何かを深く考えさせられました。未来を担うひとりである私は、絶対にこの3日間で学んだたくさんの事を忘れません。本当に楽しく面白い思い出をつくることができました。
(奥州市、中2女子)

岩手の復興について知りたかった事、不思議に思っていた事を質問できたりしたので、とても参考になりました。また、みんなと仲良くなったので良かったです。いわて希望塾で学んだことを活かしつつ、他の人へと伝えていき、将来、岩手を担う若者として生きていきたいと思います。
(滝沢村、中2女子)

岩手の将来についてたくさんの話をしたり、考えたりする事ができました。また、県内のいろんな中学生の意見を聞くことで、自分の視野も広がり、とてもいい経験になりました。
(遠野市、中2女子)

希望塾で人間関係だったり、意思表示だったり、大切なことを学びました。普段の学校生活で活かすようにしたいです。また、復興に向けて学校でできることはないか生徒会で考えたいと思います。
(盛岡市、中2女子)

この希望塾で私は、人と人とのつながりは大切ということを知りました。グループの中で「復興ゆるキャラ」というのを考え、みんなの考えた、想いのつまったキャラができました。この出会いがなかったらできなかったもの、グループのひとりでも欠けたらできなかったもの、出会い、人と人とのつながりはとても素晴らしいと実感できました。
(山田町、中2女子)



Q:「よりよい街づくり」という言葉をよく聞きますが、中学生である私たちは具体的にどのような活動をすればよろしいのですか？

塾長:中学生が参加できる街づくりとして考えると、まず住んでいる地域をよく知ることが大事です。よく知るために「好きなところを見つけること」です。『あまちゃん』のアキのように「海が好き」「潜るのが好き」「ウニが好き」、このように自分の身近なところの「好き」を見つけていくことです。「好き」から「知る」へ、そして「考える」ことができるようになります。「考える」ことから「議論する」、「行動する」ことへつながっていきます。

Q:塾長は、小学校の頃からリーダーシップや周りをまとめる力はあったのですか？

塾長:小学校のときには児童会長、中学校では生徒会長をやっていました。リーダーシップがあったからというよりは、生徒会長などをやらせてもらったことで『考え、議論し、行動する力』が身についたように思います。そして、今も役に立っています。

リーダーとしての秘訣は、『集団の中で、自分がその集団が一番好きであると、努力する事』です。好き嫌いは、自分の意思で決めることができます。「自分はいわてのなかで、いちばんいわてが好きな人間であろうと頑張っている。それが知事の資格であるとも思っている」。

Q:『あきちゃん』と『ゆいちゃん』、どちらが好きですか？

塾長:最初はあきちゃんが好きでしたが、いろいろな苦勞を乗り越えてそれでも地元で頑張るゆいちゃんの姿を見て、どんどん好きになりました。最終回でも二人の歌う姿、北鉄車内での様子を見て、二人ともやっぱり好きだなーと思いました。

塾長より

最後のほうでの熱気はものすごく、ひしひしと伝わってくるものがあった。発言できなかった人の思いもしっかり受け止め、今後の仕事に生かしていきたい。

このいわて希望塾で私が学んだことは、自分のもっている可能性は無限大ということと、自分たち中学生が元気だと、周りも元気になるということです。
(大船渡市、中2女子)

他校の生徒どうしが集まって、生活するという取り組みは、これからも続けてほしいです。特に今回の希望塾のように、『意見交換の場』というのは、これからより必要になってくると思うのでぜひ行ってください。
(紫波町、中2男子)

この希望塾で、復興を進めるのは自分たちということを学びました。どんな小さなことでも復興の手助けになる。過去に戻すのではなく、未来につなげる復興に少しでも関われたことが、自分にとって良かったと思います。
(花巻市、中2男子)

希望塾で学んだことは、復興の力とは「地元の人々がつながりの力」であるということ。人と人が繋がることで大きな力になる。だからもっと人と人のつながりを大切にしていきたい。また、「リーダーとは誰よりもその団体を好きにならなければならない」このように色々なことを学ぶことができた。
(宮古市、中2男子)

私は、自分に自信がありませんでした。生徒会長になっても、不安ばかり。けれど、ディスカッションや講演を通し、「自分の意見を言うこと」、「誰かの考えを受け止めること」の嬉しさを改めて学ぶことができました。とても、良い勉強になりました。
(一関市、中2女子)

「岩手の未来に関わりたい」と思いつつも、「そのためにどうすればいいのか」という考えは出てきませんでした。この「いわて希望塾」に来て、具体的な行動等を学ぶことができて本当に良かったです。また、いい仲間と楽しく過ごしたり、おいしい食事本当に幸せでした。
(釜石市、中2女子)

私は、いわて希望塾で「わたしたち中学生にできること」を考えました。そこで、中学生は若いし、体力があり、頭がやわらかいということが分かり、できることは、たくさんあることに気づきました。一番簡単にできるのは「元気に生活することだ」と思いました。これからは、毎日元気に生活し、地元も元気にしていきたいです。
(洋野町、中2女子)



3日間の生活

11/2



開会式・オリエンテーション
14:00～



県内各中学校から集まってきた中学生は、不安と緊張の顔つきでした。



食事はバイキング形式

講義：「復興支援活動について」 16:30～
(一社) 子どものエンパワメントいわて

学習支援課長 浅石裕司氏



サロン 18:15～
「未来へのヒント部屋」

塾生がフリーテーマで語り合いました。

11/3



塾長講話：9:35～



塾生は地域へ帰って行きました。

未来への旅立ち：12:30



11/4

アイスブレイキング・グループディスカッション

14:45～



緊張を解きほぐすアイスブレイキング



最初は挨拶から、そして握手！



宿題の10人の声は、このようにまとめられました。

翌日



講演：「私たちにできること」 16:30～ アンダーエイジ（熊谷由輔さん、結城多聞さん）



アンダーエイジ（吉本興業：岩手県「住みます芸人」）の二人は、被災地での取材を通して「みんな共通しているのは、どこに行っても地元愛がすごい。復興を目指して本気で頑張る人は、地元を本気で愛する人だということを再認識されました。」

そして塾生たちには、「これから、職業を選ぶうえで、可能性は無限大だと思うから、やりたいことをやって、もしそれがだめなら次がんばればいいし、硬く考えず、僕は楽しく生きていて欲しいなと思います。」と、語りかけました。



平井ふみ子さん（県民会議理事） 特命大臣表彰を受賞しました。



内閣府の2013年度子ども若者育成・子育て支援功労者表彰で、ガールスカウト岩手県連盟長の平井ふみ子さんが、特命担当大臣表彰（子ども・若者育成支援部門）を受賞しました。

平井さんは連盟長として異世代や異文化交流の機会を創出し、長きにわたり青少年の健全育成に貢献しています。また、知的障がいがある若者の雇用支援や宮古市の復興支援等幅広く社会貢献活動を行っています。

Q1.受賞おめでとうございます。震災後の活動も大きく評価されたと思いますが、エピソード、印象に残っていることを教えてください。

平成23年東日本大震災の直後、国内外のガールスカウト団員から送られたくつ1,000足、バックパック（下着、生活用品等）1,000人分など、4tトラックいっぱいの支援物資、受け取ったものの大きな意味を考えながら、私ともう一人のリーダー2人で沿岸各地域（宮古・山田・大槌）の避難所や学校に、のべ10日間で1,000km走り、みんな平等になるよう配慮して配った。

Q2.まちづくりの活動について教えてください。

新潟大学の雲尾准教授の地域学の講座をきっかけに、まちづくりをテーマとする「まちづくりプロジェクト」を立ち上げ、まちづくりコーディネーターを養成する講座を開催して人材育成に取り組んだ。雲尾准教授の「町は失われても、地域の良さは失われない」この言葉が印象的。

また、知的障がいをもつ若者たちの雇用を守るために、平成24年に「NPOイーハトーヴォとりもと」を立ち上げ、住みなれた地域で安心して普通の暮らしができるよう必要な支援を行うとともに、障がいのある人もない人もともに支え合う共生の街づくりを目指す活動を行なった。

Q3. 子ども・若者へのメッセージをお願いします。

自分がどう生きていきたいかよく考え、見極め学校では1つの答えしかない場合が多いが、社会にはたくさんの答えがあり、すべてが正しいということ伝えてたい。

日 時
平成 26 年 1 月 26 日 (日)
13 時～ 15 時 30 分

会 場
岩泉町民会館
(岩泉町岩泉町字松橋 21-1)

内 容

1. 開会行事
2. 分科会
 - 第 1 分科会
『不登校児童等への対応を考える
～スクールカウンセリングの立場から～』
 - 第 2 分科会
『認定こども園での指導を考える
～ことばと絵本～』
 - 第 3 分科会
『障がい児童の養育を考える
～特別支援学校での取組み～』
 - 第 4 分科会
『親と子の絆 子育てを考える
～音楽を通して～』
3. 全体会

当日は、アイーナから送迎バスが 8:30 に出ます。
参加ご希望の方は、1 月 17 日 (金) までに
県民会議事務局まで



情報発信中

(公社) 岩手県青少年育成県民会議

ホームページ : <http://www12.ocn.ne.jp/~ipayd/>

青少年活動交流センター

ホームページ : <http://www.aiina.jp/seishounen/>

facebook : Ya-center Aiina

twitter : ya_center

(公社) 岩手県青少年育成県民会議では、毎月第 3 日曜日を「いわて家庭の日」として、親子・家族のふれあいを深める運動を推進しています。家族での食事や、家事分担、子どもたちの過ごす時間の大切さを改めて考える日にしましょう。



毎月
第 3 日曜日 いわて家庭の日

主催: (公社) 岩手県青少年育成県民会議 / 推進協力: 岩手県・岩手県教育委員会・岩手県警察本部

会員を募集しています

○だれでも、いつでも○

(公社) 岩手県青少年育成県民会議は、個人や団体の会員の皆様の参加のもとに、地域での青少年活動及び育成活動を活発に展開する青少年育成運動を進めています。

この運動は、県民や民間団体など全てのエネルギーを結集して、次代を担う青少年の育成を目指しています。

この趣旨に賛同される方ならどなたでも加入できます。ぜひご参加ご協力ください。

正会員

年額 《個人》 3,000 円
《団体》 6,000 円

賛助会員

年額 《個人》 1 口 12,000 円以上
《団体》 1 口 25,000 円以上